

## トルコ語の反復と重複

### —形態論と統語論の境界を考える—

東京大学大学院 鈴木唯

#### 1. はじめに

言語形式の繰り返し現象には、**反復** (repetition) と **重複** (reduplication) がある。反復は ‘*koş, koş!* (run run)’ 「走れ、走れ！」のように語以上の単位に適用され、統語論的な操作であるとされるのに対し、重複は ‘*sap-sarı* (RED-yellow)’ 「とても黄色」のように語の内部に適用され、形態論的な操作であるとされる (Gil 2005)。

トルコ語には、反復あるいは重複といえる言語形式の繰り返し現象が豊富にみられ (Göksel and Kerslake 2005: 98-101)、特にトルコ語の部分重複については音韻論の観点から様々な先行研究がある。しかし、トルコ語の反復と重複を区別しつつ両者を包括的に扱った研究はなされてこなかった。反復と重複には繰り返される単位の大きさ以外に相違点はあるだろうか。また、言語形式を繰り返すという操作以外に共通点はあるだろうか。

本発表は、反復と重複を包括的に捉えなおすとともに、構文形態論 (Booij 2010) の枠組みで分析を行うことで、両者の区別を維持しつつ、その共通点を明らかにする。具体的には次のことを主張する: **(i)** 一般的に反復は談話的な機能や類像的な意味をもち、重複は恣意的な特定の意味をもつ (Gil 2005: 34) が、トルコ語の反復には重複のように特定の意味をもつものがある。**(ii)** (i) で挙げた反復は、形態論的な意味で語ではないものの、句以上の単位が (形態的) 複合のように強く結びつき、特定の意味をもつ「統語的複合 (Booij 2010)」を形成する。**(iii)** 構文形態論 (Booij 2010) により、この統語的複合を成す反復と重複について、両者の区別を維持したまま、共通性を捉えることができる。

本発表の構成は以下の通り: 第2節では Gil (2005) における反復と重複を区別する基準を概観する。第3節ではトルコ語の反復と重複のデータを提示し、(i) の観察を提示する。第4節では構文形態論 (Booij 2010) の枠組みで分析を行った上で、(ii)(iii) を主張する。第5節で本発表をまとめる。なお特に出典のない限り、例文は発表者が作成し、トルコ語母語話者に正誤判断をしていただいたものである。

#### 2. Gil (2005) における反復と重複

Gil (2005) における反復と重複を区別する基準を次の表 1 に示す。

**表 1: 反復と重複を区別する基準 (Gil 2005: 33)**

基準	反復	重複
1 出力の単位	語より大きい	語
2 伝達の補強	ある or ない	ない
3 意味	類像的 or ない	恣意的 or 類像的
4 出力の韻律領域	一つ以上の韻律領域	一つの韻律領域
5 コピーの近接性	近接的 or 離散的	近接的
6 コピーの数	二つ以上	二つ

**1. 出力の単位** 両者を区別する本質的な基準となる。反復は入力単位（繰り返される要素）が語以上で、出力単位（繰り返された結果）が句以上である。一方で、重複は入力単位が語以下で、出力単位が語である。

**2. 伝達の補強** 伝達の補強とは、話者が自分のメッセージを確実に伝えるために同じことを繰り返し言うことである。これは、反復のみにみられる特徴であるが、すべての反復にみられるわけではない。

**3. 意味** 反復は、上述のように、伝達を補強する機能をもつことがあるが、恣意的な特定の意味をもつことはない<sup>1</sup>。対照的に、重複はたいてい特定の意味をもつ。すなわち、繰り返すことによるのみ得られる慣習的な意味がある。この点で文法的形態素がもつ機能と似ているといえる。重複の意味は、類像的なものもあれば、恣意的なものもある<sup>2</sup>。

**4. 出力の韻律領域** 反復は複数の語から成り、韻律領域は一つ以上である。一方で、重複は、語の内部の現象なので韻律領域は一つである。さらに、反復は二つの要素の間にポーズを挿入できる一方で、重複は挿入できない。

**5. コピーの近接性** コピー（出力された要素）が互いに近接しているかどうかである。反復はコピーが互いに近接している場合も他の要素が間に挿入され離れている場合もある。一方で、重複は、互いに近接している。

**6. コピーの数** 反復はコピーの数に上限がない。一方で、重複のコピーの数は二つに限られる。

このように、Gil (2005) は六つの基準を挙げ、その中でも両者を区別する本質的な基準は一つ目に提示した出力単位の大きさであるとする。次節以降はこの基準で両者の区別を試みた上で、両者にはGil (2005) の挙げる基準では捉えきれない特徴があることを示す。

### 3. トルコ語の反復と重複

本節ではトルコ語における反復・重複現象のデータをもとに観察を行う。(A) 完全な反復、(B) 重複のような特徴を多く持った反復、(C) 重複のデータをそれぞれ提示する。

#### (A) 物売りの呼び声にみられる反復

第2節で挙げた六つの基準をすべて満たす反復現象として、物売りの呼び声がある。これは物売りが物売る際、品物などの名を繰り返し叫ぶ場合である。(1)(2) は、道端でシMITT（トルコのリング型のパン）を売る人の呼び声である。それぞれ、二人の異なる男性のシMITT屋の呼び声である。

(1) *Sıcak simit, sıcak simit, sıcak simit, sıcak simit, sıcak simit, sıcak!*

hot simit

「熱いシMITT、熱いシMITT、熱いシMITT、熱いシMITT、熱いシMITT、熱い！」

(Emeğin Öyküsü - 7 Mayıs 2016 (Simit)<sup>3</sup> 15:35)

(2) *Simit, simit, simit, simit!*

「シMITT、シMITT、シMITT、シMITT！」

(Emeğin Öyküsü - 7 Mayıs 2016 (Simit) 15:47)

<sup>1</sup> 反復が意味を持つ場合は、一般的に強調、複数性、繰り返しなど類像的な意味である。

<sup>2</sup> Gil (2005: 35) は、類像的な意味の例として以下を挙げる：複数性、多量性、多数性、大規模性、強調、数量化、分配性、不定性、反復性、継続性、相互性など。また、恣意的な意味の例として以下を挙げる：未完了性、模倣性、軽視、譲歩、制限、否定極性など。

<sup>3</sup> <https://www.youtube.com/watch?v=Tr2Jrq6Uij4>

(A) の現象は、Gil (2005) の挙げる六つすべての観点から反復といえる現象である。(1) では *sıcak simit* 「熱いシミット」という句、(2) では *simit* 「シミット」という語を繰り返すが、出力単位は語ではなく、語より大きい。韻律について、(1) では *sıcak simit* 「熱いシミット」という句、(2) では *simit* 「シミット」という語が韻律領域を形成する。コピーの近接性について、それぞれの要素の間に、他の要素やポーズを挿入することができる。例えば、(2) で最初の *simit* と二番目の *simit* の間にポーズを入れたとしても不適格にならない。コピーの数について、繰り返しの数に制限はない。(1) と (2) においても繰り返される要素の数は異なる。意味について、(A) の反復は、伝達の補強のためのものであって、特定の意味をもたない。

## (B) 過去形の反復義務構文

次に、出力単位の大きさの基準から反復といえるものの、重複にみられる特徴を多く持つ反復の現象を挙げる。ここで示す反復現象は、(3) のように動詞の過去形を繰り返すことで、「今すぐ～しなければならない」という義務の意味を表す (鈴木 2019)。(4) のように動詞の過去形を繰り返さない場合、義務の意味は持たない<sup>4</sup>。

(3) *İlaç iç-ti-n iç-ti-n.*  
 medicine drink-PST-2SG drink-PST-2SG  
 「君は今すぐ薬を飲まなければならない。」(lit.「君は薬を飲んだ飲んだ。」) (鈴木 2019)

(4) *İlaç iç-ti-n.*  
 medicine drink-PST-2SG  
 「君は薬を飲んだ。」(\*「君は今すぐ薬を飲まなければならない。」)

(3) では *iç* 「飲む」という動詞に過去接尾辞と主語の人称接尾辞がついた形式を繰り返すことで、「今すぐ飲まなければならない」という義務の意味が生じる。

二つの動詞の過去形の形式の間にポーズが入るので音韻的に二語とすることができる。さらに、屈折は語形成の後に行われる操作であるという立場をとるならば、出力された二つの要素それぞれの動詞語幹に過去時制と主語の人称の屈折接尾辞がついているため、繰り返した結果、二つの語が形成されているといえる。そのため、この現象は反復といえることができる (鈴木 2019)。

一方で、この反復は形式の観点で以下の二つの特徴をもつが、これらは重複に多くみられる特徴である。第一に、(5) のように三回以上繰り返すことができない。

(5) *\*İlaç iç-ti-n iç-ti-n iç-ti-n.*  
 medicine drink-PST-2SG drink-PST-2SG drink-PST-2SG  
 意図した意味: 「君は今すぐ薬を飲まなければならない。」 (鈴木 2019)

第二に、(6) のように二つの形式の間に他の要素を挿入することができない。ここでは、*ya* という強調の終助詞の挿入を試みた。

<sup>4</sup> 本稿で扱われる略号は以下の通り: ACC: accusative, EMP: emphasis, OBL: obligatory, PST: past tense, RED: reduplication, SG: singular, 2: second person, 3: third person





ADJは形容詞を表す。形容詞の一部を繰り返すことで、その形容詞が表す性質の程度が高いことを表すという特定の意味をもつ語を形成する。

(B)のような反復の操作と(C)のような重複の操作は平行的に考えることができる。Booij(2007: 35-36)は、重複を**形態的複合**(morphological compound)(部分重複の場合は派生)に当たると考える。重複の繰り返される部分(RED)の音韻的内容は語基の音韻的内容によって決まるので、REDは音韻的内容をもった要素としてレキシコンにリストすることはできないが、抽象的要素REDを想定することができる。こうして、重複は(14)のように構文イディオムで捉えることができる。

本発表では、重複を形態的複合とする考えと平行的に、反復は**統語的複合**(phrasal compound)と分析できると提案する。統語的複合とは、句的な統語的単位であるものの、形態的複合と同じようにその要素が互いに強く結びつき、特定の意味を担う単位である(Booij 2010: 94)。(13)の反復は、句以上の要素が強く結びついている。具体的には、第3節の(B)で示したように、繰り返される形式の間に他の要素が入ることはできず、三回以上繰り返すこともできない。重複と同じように、繰り返される部分の音韻的内容は、入力要素の音韻的内容によって決まる。繰り返すことによって特定の意味をもつ句的な単位を形成する。こうして一部の反復は(13)のような構文イディオムで捉えることができる。

このように、構文形態論は、(B)のような反復と(C)のような重複について統語論と形態論の区別を維持したまま、その共通点を捉えることができることを主張した。具体的には、重複は形態的複合を、反復は統語的複合を形成しており、両者は構文イディオムとしてレキシコンに登録されていると考えることができる。これらの特徴は、構文イディオムを統語的な単位にも形態的な単位にも適用する構文形態論の枠組みでこそ捉えることができる。

## 5. まとめ

本発表で扱った反復と重複は統語論と形態論という部門の違いがあるものの、両者は構文イディオム、さらに語彙的単位として捉えることができると主張した。具体的には、前者を統語的複合、後者を形態的複合にあたる単位として捉えることができることを示した。さらに、反復・重複という統語論から形態論にまたがる言語現象を扱うことで、レキシコンと統語論に明確な境界線はないという構文文法及び構文形態論の考えを支持する分析を提示することができた。このように、トルコ語の反復と重複には興味深い相違点と共通点がある。このような分析は本発表のように構文形態論の枠組みを採用し、かつ反復と重複の現象を包括的に扱うことではじめて可能となる。

**【参考文献】** Booij, Geert. 2007. *The Grammar of Words: An Introduction to Linguistic Morphology*. Oxford University Press. / Booij, Geert. 2010. *Construction Morphology*. Oxford: Oxford University Press. / Gil, David. 2005. "From Repetition to Reduplication in Riau Indonesian." In *Studies on Reduplication*, edited by Hurch Bernhard, 31–64. Berlin: Mouton de Gruyter. / Göksel, Ash, and Celia Kerlake. 2005. *Turkish: A Comprehensive Grammar*. Oxon: Routledge Press. / Lewis, Geoffrey. 2000. *Turkish Grammar*. 2nd ed. New York: Oxford University Press. / 長屋 尚典. 2014. 「重なる形、繰り返す意味: フィリピン諸語の重複と反復」 東京外国語大学国際日本研究センター対照日本語部門主催『外国語と日本語との対照言語学的研究』第14回研究会. 東京外国語大学. 東京. 2014. 12. 13 / 鈴木 唯. 2019. 「トルコ語の過去形の反復義務構文」 日本言語学会第158大会. 東京大学. 東京. 2019. 6. 23-24.